

白系秋輪ギク新品種「立神(りゅうじん)」の育成

背景・ねらい

本県主力品種である「神馬」は、側枝の発生が多く摘芽作業に労力を要する問題があった。そこで、本県では、突然変異育種法により半無側枝性で花・茎葉のボリュームのある「新神」を育成した。しかし、「新神」は低温期に開花が遅れるため、昨期が年内出荷に限定されている。



「新神」を再改良し、ボリュームに加え、低温管理で開花の遅れない特性を持つ品種を育成する。

研究方法

- 平成21年に「新神」にイオンビームを照射し、22年度～25年度に選抜試験を実施
- 26年度に花き部、フラワーセンター、現地(枕崎、曾於)で評価試験を実施、品種候補として選定
- 27年度に品種登録出願

成果の内容・特徴

- ① 既存の低温期主力品種「神馬2号」と同等の温度管理で開花が遅れない(低温開花性が高い)。
- ② 「新神」並に花のボリュームがある。
- ③ 11月から3月出し栽培まで、幅広い作型で品質が安定している。



「立神」

今後の展開

「立神」の種苗はフラワーセンターから県内生産者へ供給。栽培技術の確立と普及に取り組む。